

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 1 月 30 日 (2014.1.30)

【公表番号】特表 2013-512923 (P2013-512923A)

【公表日】平成 25 年 4 月 18 日 (2013.4.18)

【年通号数】公開・登録公報 2013-018

【出願番号】特願 2012-542215 (P2012-542215)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 5/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

C 0 7 K 7/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 P 3/06

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 5/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 3/10

C 0 7 K 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 12 月 3 日 (2013.12.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害からなる群から選択される状態を予防または処置するための組成物であって、有効投与量の、配列番号 1 ~ 2 4 9 のいずれか 1 つの配列を有するグアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストを含む組成物。

【請求項 2】

有効用量の c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの阻害剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤が、前記組成物と同時にまたは順次に投与されることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

有効用量のフィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記組成物と同時にまたは順次に投与されることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 6】

有効用量の抗糖尿病剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記抗糖尿病剤が、前記組成物と同時にまたは順次に投与されることを特徴とする、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

有効用量の抗肥満剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記抗肥満剤が、前記組成物と同時にまたは順次に投与されることを特徴とする、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤が、c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤と同時にまたは順次に投与されることを特徴とする、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害を処置するための標準用量未満で投与されることを特徴とする、請求項 4 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

さらに別の態様では、本発明は、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時にまたは順次に、有効用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼ (c G M P - P D E) の阻害剤、フィブレート、脂質改変剤 (l i p i d a l t e r i n g a g e n t)、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、抗肥満剤を前記患者に投与するステップを提供する。c G M P - P D E 阻害剤として、例えば、スリダクスルホン (s u l d i n a c s u l f o n e)、ザブリナスト、およびモタピゾン、バルデナフィル (v a r d e n i f i l)、およびシルデナフィルが挙げられる。さらに、G C - C アゴニストペプチドは、環状ヌクレオチドトランスポーターの阻害剤と組み合わせ使用することができる。

本発明は、例えば以下の項目を提供する。

(項目 1)

脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害からなる群から選択される状態を予防または処置するための方法であって、その必要のある患者に、有効投与

量の、番号 1 ～ 2 4 9 のいずれか 1 つの配列を有するグアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストを投与するステップを含む方法。

(項目 2)

有効用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼの阻害剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与されるステップをさらに含む、項目 2 に記載の方法。

(項目 4)

有効用量のフィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 5)

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与される、項目 2 に記載の方法。

(項目 6)

有効用量の抗糖尿病剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 7)

前記抗糖尿病剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与されるステップをさらに含む、項目 2 に記載の方法。

(項目 8)

有効用量の抗肥満剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 9)

前記抗肥満剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与される、項目 8 に記載の方法。

(項目 1 0)

フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤を投与するステップをさらに含む、項目 2 のいずれか一項に記載の方法。

(項目 1 1)

前記フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤が、c G M P 特異的ホスホジエステラーゼの前記阻害剤と同時または順次に投与される、項目 1 0 に記載の方法。

(項目 1 2)

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害を処置するための標準用量未満で投与される、項目 4 に記載の方法。